

混沌たる因島 國粹會も加はる

備後因島の労働争議は三週日に至って対峙し愛議團は日本労働總同盟
大阪聯合會京都聯合會大阪反逆團大阪野武士組其他十数カ労働團體
代表等來援して氣勢を揚ぎ方國粹會因島支部では下関支部と聯絡
をとり會員數名は十二日來島した又並子場長は本社と協議のため十日夜
上阪した争議の永續につれ工場所在地土生所及び三庄所は疲弊困憊に
陥つておる。

因島の争議に工場側と職工團の直談で手打が出来やう

仁手抜きに歸廳した馬淵高南等課長の談

因島労働争議を取締るため二十餘日間同島に滞在し土日事務打合せのため
歸廳した馬淵廣島縣高等課長は語る

工場は今に閉鎖して争議に關係してをる職工は千八百名中の十名であつて
八九兩日に起つた騷擾は當日罷業職工側から示威運動をするこゝを届

出たので許したとこゝる豫定の行動として先頭に立つものが工場前まで
來た際動かなくなつて終に工場の門に向つて押寄せ多少行動が乱暴
に陥つたので之を取締る警官と測らず衝突して七八名の負傷者を出した訳
だ併し其後は沈靜してをる要するに争議の中心になつて調停の勞を執つ
てをる議長や總同盟の杉原支部長並に本部から特派された人々は直接労働
者に關係のない人ばかりだから従つて職工側の意思の疏通を缺き為物
に調停も遷延され延て騷擾化するものと考へられこのところには取
違當事者間に氣分がれ双方から委員を選んで直接話を進めることにな
つてをる何れにせよ職工側も工場側ももはやぐたびれてをるから調停を見
るも遠い将来ではあるまい。

六月十四日 大阪毎日新聞記事

要求を拒絶 工場閉鎖が 因島三庄の争議